

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 コミュニティ活動の促進	② 施策番号	1514
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	6 みんなでまちづくりに取り組むまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 市民が力をあわせるとともに、行政とともにまちづくりに取り組む参画と協働のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 地域コミュニティづくりの推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	人権推進課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	市民交流センターや公衆浴場を通じて、様々な人の相互の連携や交流を促進する住民のコミュニケーションの場を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態、今後どのように変化していくと考えられるか)	市民交流センターは、地域の活動拠点として今後更に重要な役割を担っていく必要がある。また、公衆浴場については、老朽化が激しく、公共施設等最適化推進実施計画に基づき、早期に検討を行っていく必要がある。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 来館者数 計算式:	人	地域の活動拠点としての活用状況がわかる。
② 利用者数(一日平均) 計算式: 利用者数 ÷ 営業日数	人	浴場を交流の場としている人の状況がわかる。
③ 計算式:		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 来館者数	人	目標値	8,500	8,500	10,000	10,000	10,000	
		実績値	7,891	9,099	10,629	—	—	
		達成率	92.8%	107.0%	106.3%			
② 利用者数(一日平均)	人	目標値	100	100	35	35	35	
		実績値	35	35	38	—	—	
		達成率	35.0%	35.0%	108.6%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化		
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性	
1	市民交流センター管理運営事業	来館者数	人	9,099	10,629	10,629	9,800	10,697	27,124	B	イ	b, c	◎
2	交流啓発事業	講座参加者数	人	783	780	800	1,904	1,966	2,063	B	イ	b	○
3	共同浴場管理運営事業	利用者数	人	35	38	38	18,029	18,080	17,866	B	イ	b, c	
4													
5													
6													
7													
8													
計	3						29,733	30,743	47,053				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市民交流センター等は、市民のふれあい・交流や情報交換等の活動拠点施設として、地域コミュニティづくりに貢献している。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	地域のコミュニティの活動拠点として、利用者を増加させていく必要がある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	現状では適切と考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状では適切と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	施設管理については、将来的に指定管理者制度の活用など検討を行っていく必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	公衆浴場の老朽化や施設管理運営コストの効率化。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	施設のランニングコスト等の削減に取り組む。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	施設の更なる効率的運用の検討。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	公共施設等最適化推進実施計画に基づく検討・実施。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	各施設への来館者数は一定数が確保され、適切に事業展開がなされている。 公衆浴場については施設の老朽化が進んでいるため、長期的視点と施策展開にあたっての全体的視点に立った抜本的な検討が必要である。	